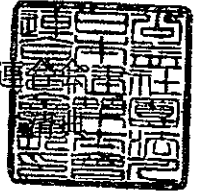


平成 27 年 8 月 25 日

新国立競技場整備計画再検討のための関係会議 議長
遠藤 利明 様

公益社団法人 日本建築士会連合会
会長 三井所



新国立競技場“屋根構造の木造化”に向けた提言

謹啓

時下、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は、本会の各種事業推進につき、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」（平成 22 年公布）に基づく国の「基本方針」では、公共建築物は可能な限り木造化を図ることとされています。

今般、新国立競技場の整備計画を白紙に戻しゼロベースで見直すことを受け、本会は、新競技場の屋根構造の木造化について、改めて検討いたしました。

その結果、別添の通り、構造等諸性能、工期、コスト等の観点から、新競技場の屋根構造を木造化することは現在の建築技術や木材の生産・供給体制の下で充分実現可能であるとの結論を得ました。

また、新国立競技場のデザイン上重要な構成要素である屋根に木を使用することは、関係閣僚会議「再検討に当たっての基本的考え方」（8 月 14 日）にある「日本らしさに配慮」「地球環境を十分考慮」に合致するものですし、わが国の木の文化を世界に向け発信するとともに地方の木材産業の活性化にも寄与します。

以上のことから、本会は、新国立競技場の屋根構造の木造化を提言する次第です。

関係者の皆様におかれては、是非その実現に向けた検討を進めていただくようお願いいたします。

謹白